

vol.

106

2021

11/26 発行



いちのへ社協だより

ゆいっこ



CONTENTS

歳末たすけあい募金運動への協力をお願い	2	つながる地域つなぐて・と・て	6
特集 法人後見事業の取り組み	3	社協からのお知らせ	7
できごとフラッシュ	4～5	Topics	8

題号 "ゆいっこ" は、古くは若者たちによる共同農作業という素朴な集団の呼称として使われていましたが、この互助精神が福祉の精神そのものと思い、社会福祉協議会広報の題名にしました。



新たな年を、あたたかい気持ちで迎えるために。 歳末たすけあい募金運動

にご協力をお願いします。

歳末たすけあい運動は、寝たきりやひとり暮らしのお年寄り、からだが不自由な方をはじめ支援を必要とする人たちが、新たな年を迎える時期に地域で安心して暮らすことができるよう、住民の参加や理解を得て重点的に実施するものです。
皆さまからご協力いただいた義援金をもとに、対象となる方へ配分が

行われます。
誰もが安心して新しい年を迎えられるよう、皆さまのご協力をお願いいたします。

岩手県共同募金会 一戸町共同募金委員会
一戸町社会福祉協議会
一戸町民生児童委員協議会

運動実施期間
令和3年12月1日～12月28日

目標金額
3,480,000円
(内訳)
配分金額
3,350,000円
事務費
130,000円



運動スケジュール

11月下旬	運動資材配布 民生児童委員へ運動資材を配布します。
12月1日	募金活動スタート 民生児童委員、班長等が住民の皆様へお願いに上がります。
12月10日	募金納入期限 今年度義援金を配分する方々を決定します。
12月20日	対象者へ義援金を交付

義援金の使いみち2020



世帯への配分

所得が少ない世帯やご自宅で寝たきりの方や認知症の方を介護している世帯など支援を必要とする世帯へ配分します。

配分金額 **2,279,000円**



子育てサークル いちはぴへの配分

おもちゃや絵本、安心安全に過ごすための備品など、ママたちの「これがあると嬉しい」というものに活用されます。

配分金額 **30,000円**



地域子育て支援センターのびのびへの配分

運動会やクリスマス会などイベントのプレゼント等に活用されます。

配分金額 **30,000円**

特集

一戸町社協における地域貢献活動 法人後見事業の取り組み

いつまでも安心して暮らし続けるために。

「障がいを持つ我が子の親亡き後」「離れて暮らす高齢の両親の暮らし」「認知症になり、自分で払戻ができなくなってきた」このようなことで不安に感じることがありませんか？

地域住民のこのような不安に寄り添うべく、本会では今年度より法人後見事業を開始しました。認知症や心身障がい等様々な疾病があっても、いつまでも住み慣れた地域で誰もが自分らしく暮らすことが出来るまちを目指して事業を展開していきます。

なぜ今一戸町社協で法人後見事業を開始するの？

一戸町は高齢化率が高いだけでなく、障がい福祉施設が複数あることや精神科専門医が常駐する県立病院を有することなどから、以前より地域住民

や関係機関の権利擁護に対するニーズが高い地域です。

既存の金銭管理サービス「日常生活自立支援事業」における利用者数は、県内で比較しても高い割合で数年推移しています。

このような背景を受けて、事業へ着手する運びとなりました。また法人後見を行うことで、「長期的な支援を行うことが出来る」「法人の専門性を生かした組織的な対応が可能」といったメリットがあります。

当事業については、社会福祉士などの有資格者や市民後見人養成講座を修了した職員が、関係機関と連携を図り、事業を進めていきます。

成年後見制度及び法人後見事業に関するお問い合わせは、

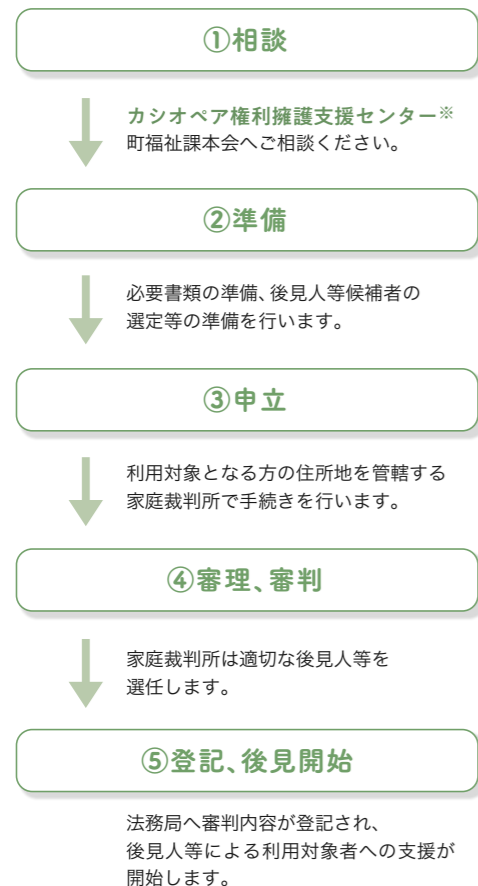
一戸町社会福祉協議会 法人後見事業担当(TEL 0195-333-3385)まで、お気軽にお問い合わせください。

「成年後見制度」 ってなに？

Q 成年後見制度ってどんな制度？

A 本人に代わって財産の管理や必要な契約を結ぶことで、本人を保護、支援するものです。家庭裁判所により、親族、専門職、市民、また本会のような法人が後見人として選任されます。

Q 利用するにはどうすればいいの？



※NPO法人カシオペア権利擁護支援センター



成年後見制度に関する二戸管内の中核機関として、制度に関する相談支援を行っています。
二戸市石切所字川原46-1 (TEL 0195-43-3042)



参加者が自分の隣近所の情報を出し合い、地図上に記入していく様子。



自分の地域の課題を知り、共に支え合う地域づくりへ 一戸町住民支え合いマップ作成開始

本会では、民生児童委員や自治組織など町内関係機関と岩手県社会福祉協議会の協力により、10月5日、住民支え合いマップの作成を開始しました。住民支え合いマップは、概ね50世帯を対象地域とし、地図上に「気になる人」「支援を必要とする人」の情報と他者との関わりを書き込んでいくことで、地域の課題を明らかにすることと、課題解決に向けて住民同士で支え合う地域づくりを目指して実施するものです。

今年度は、鳥越中野平町内会（柴田明宣会長）をモデル地区とし事業を展開していきます。作成初日となった当日は、地域住民8名が参加し、自分の隣近所について考え意見を出し合いました。



講義で覚えた声をかけるときの基本*3つの「ない」(驚かせない、急がせない、自尊心を傷つけない)を訓練で実践する参加者。

認知症になっても安心して暮らし続けられる地域づくりを目指して 一戸町見守り声かけ訓練実施

町地域包括支援センターと岩手県立大学社会福祉学部認知症フレンドリープロジェクト（柏葉英美教授）は、10月2日、見守り声かけ訓練を実施しました。

この訓練は、認知症になっても安心して暮らし続けられる地域づくりを目指して、町なかで困っている高齢者を見かけた際、見て見ぬふりをせず住民が互いに声をかけ合えるよう日頃から備えるために、警察署、消防署をはじめとする管内関係機関の協力により実施したものです。当日は、一般住民や一戸高校の生徒など90名が参加しました。グループワークを通じて、参加者から「町内各地区でも開催してほしい」「親子で参加できるように企画してほしい」などの意見が出され、認知症に対する理解を深めました。

御所野縄文遺跡の世界遺産登録を記念して いちのへじょうもの里こども園「縄文の里音楽会」参加

11月3日、一戸町コミュニティセンターで世界遺産登録記念「縄文の里音楽会」が開催され、いちのへじょうもの里こども園の4～5歳児25名が参加しました。

「御所野縄文遺跡、世界遺産登録おめでとうございます！」と元気な声で音楽会のオープニングを飾り、今年4月に開所した当園の園歌を披露しました。

大きな会場とたくさんの観客を前に緊張しながらも立派に歌い切りました。



園歌を披露する園児たち。

食育を通じて考える～私たちにできるSDGs～ 一戸学童クラブ稲刈り実施

一戸学童クラブは、9月30日、「一戸学童クラブ米」の稲刈りを行いました。

同クラブでは毎年、身近なお米を作る過程を知り食の大切さを学んでほしいと考え、町地域整備課の協力のもと田植えから稲刈り、脱穀まで一連の米作りを行っています。約10年目となる今年の稲の状態は概ね良好で、初めて米作りを体験する1年生は特に目を輝かせ楽しんで作業を行いました。

昨今の食品ロスや世界的なSDGsへの動きなども踏まえて、子どもたちが「自分にできること」を考えるきっかけになればと思います。



初めて触れる道具の使い方に苦戦しながらも楽しく稲刈りを体験。

「命の大切さ」と「共に生きる力」を育む ふれあい体験学習開催

10月26日、社会福祉法人岩手県社会福祉事業団「中山の園」（伊藤信一所長）の協力により、ふれあい体験学習を開催しました。

この事業は、障がい福祉を制度、サービス、個別ケア等多様な側面から理解し、福祉教育の推進や福祉人材育成を目指して実施するものです。当日は、県立一戸高校福祉・介護系列2年次生14名が参加いたしました。講義や施設見学を通じて、利用者1人ひとりを尊重した支援の仕方等に触れ、自分の進路について視野を広げました。



中山の園の職員により施設の概要等について説明を受ける一戸高校の生徒。

孤立防止と介護予防を目指して 関屋町内会 ふれあい・いきいきサロン事業開始

関屋町内会（畑中努会長）は、地域住民の孤立防止と介護予防を目指して、今年度よりふれあい・いきいきサロン事業への取り組みを開始しました。

初回となった11月5日には、地域の高齢者等13名が関屋公民館に集い、NPOスポーツウェルネス運動指導員の下、コロナ禍により閉じこもり縮こまった心身をゆっくりほぐしました。



介護予防を意識したシルバーリハビリ体操を行いました。

日常生活自立支援事業(あんしんねっと)のご案内

高齢の方や障がいをお持ちの方で、福祉サービスの利用手続きや日常的な金銭管理の判断が不十分な方をサポートする事業です。

- サービス内容:
- ① 福祉サービスを安心して利用するための援助サービス
 - ② 日常のお金の出し入れをサポートする金銭管理サービス
 - ③ 大切な書類等を安全に保管する書類等預かりサービス

利用料: 1回1時間あたりおおむね1,300円(相談は無料)
 問い合わせ: 一戸町社会福祉協議会
 (TEL 0195-33-3385)

生活やしごとに関する困りごと相談会開催のお知らせ

「就職しても長く続かない」「収入はあるが、借金があり生活が苦しい」「人とのコミュニケーションが苦手だ」など、暮らしの中の様々な悩みに関する出張相談会を開催します。

日時: 令和3年12月17日(金)午前10時00分~正午
 場所: 一戸町総合保健福祉センター
 費用: 無料
 問い合わせ: 一戸町社会福祉協議会
 (TEL 0195-33-3385)

表紙の紹介



今年10月から、株式会社一戸製材所(梅垣俊輔社長)に勤務する齊藤翔太さん(26)。障害者雇用に取り組む同社梅垣社長と翔太さんは、障害に対する正しい理解が進み、次世代が活躍する場が広がることを願い奮闘中。(関連6ページ)

運動指導員等講師派遣を行っています。

コロナを契機に自宅で過ごす時間が増え、体力の衰え、意欲の減退を感じることはありませんか? 町内会や老人クラブ等の集会、介護予防教室やふれあい・いきいきサロンへ、各種講師を派遣する事業を実施しています。

派遣できる講師: NPO スポーツウェルネス(町総合運動公園) 運動指導員、看護師や歯科衛生士、社会福祉士など保健医療、福祉に関する専門職
 費用: 無料
 問い合わせ: 一戸町包括支援センター
 (TEL 0195-32-3700)
 一戸町社会福祉協議会
 (TEL 0195-33-3385)

VR 認知症プロジェクト開催のお知らせ

VR(バーチャルリアリティ)を使って、認知症を疑似体験します。その中に認知症ケアの新たな寄り添い方を見つけるヒントがあります。認知症の人の世界を体験し、あなたにできる認知症ケアを考えてみませんか。

日時: 令和3年12月14日(火)午後1時30分~午後3時00分
 場所: 一戸町コミュニティーセンター
 費用: 無料
 申込方法: 問い合わせ先へ電話で申し込み。(先着順)
 問い合わせ: 一戸町社会福祉協議会
 (TEL 0195-33-3385)



前年度県立一戸高校で実施した「VR 認知症プロジェクト」の様子



株式会社一戸製材所梅垣俊輔社長(左)と今年10月に入社した齊藤翔太さん(右)。町内はもとより県内外の建築資材を取り扱う同社は、梅垣社長の先代から障害者雇用に取り組んでいる。

つながる地域
つなぐて・とて

part 10

株式会社一戸製材所
齊藤翔太さん

かつて一戸では当たり前だった活気ある地域づくり。誰もが自然に手を差し伸べ合い、助け合える地域づくり。そんな光景を再び一戸に取り戻したい…。社会福祉協議会は、住民が手と手を取り合い支え合う地域づくりの実現を目指しています。このページでは、町内の住民主体による活動によって地域が元気になる「つながり」が生まれていく様子をシリーズで紹介していきます。

障害のある自分が、人に教えるということ

キリっとした顔立ちに黒縁眼鏡、作業着もおしゃれに着こなす好青年。齊藤翔太さん(26)は、今年10月から株式会社一戸製材所(梅垣俊輔社長)での仕事を始めたばかり。機械で裁断された木を所定の位置へ選別、移動するのが翔太さんの担当だ。

9月までは、パン製造で有名な社会福祉法人カナンの園力ナン牧場に8年半勤務。リーダーとして従業員をまとめ上げる程の真面目さが買われ、同法人出身の先輩がいる一戸製材所での就労が決まった。就職してから日は浅いが、「人思いで真面目、明るく元気な挨拶が魅力」と梅垣社長も太鼓判を押す。プライベートでは身体を動かすことが好きで、2016年全国障害者スポーツ大会フライングディスク競技において2位入賞を果たす程の実力。自分の経験を後進育成に活かしたいと、公式審判員中級の資格も取得した。

「20代前半、やんちゃしてたくさんの人に迷惑をかけた」と苦笑いする翔太さん。たくさんの

人にお世話になった時代を経て、リーダーとして「教える側」を経験した彼は言う。「指導される側、指導する側、自分にはどちらの気持ちもわかる。障害のある人の気持ちもわかる。障害に対する理解が進み、次世代の活躍の場が広がってほしい。」

障害って、うちの会社では「特技」と呼ぶ。

一戸製材所が障害者雇用を始めたのは先代から。翔太さんで2人目となる。従業員同士で支え合おうとする協調性やチーム



①翔太さんと同じカナンの園出身の先輩田口さん。翔太さんの存在は、田口さんの励みともなっている。
 ②端材に「翔太」の文字。端材を会社からもらい、趣味の木工に活用する。作るの、お世話になった人たちへ木箱のプレゼント。

ワーク、互いに研鑽し合い励まし合う姿等障害者雇用が会社にもたらした効果は大きい。「障害って、彼らにあるものじゃない。私たちの見方にあるもの」梅垣社長は温かく従業員を見つめた。障害があってもなくても、その人にしかできない、その人の特技を活かした仕事を任せる。その姿を見て、自分の中にあった「障害」に気付かされた。翔太さんの夢は、お世話になった人への恩返しと、家族を持ち自分の家を建てること。そう語る真つ直ぐな眼差しに、夢が叶う日が近い気がした。

各種相談日程表

	法律相談	多重債務相談	くらしの相談窓口	ふれあい相談
開催日	12月14日(火) 12月28日(火)	12月21日(火)	月曜日～金曜日 (土日祝祭日・年末年始休み)	月曜日～金曜日 (土日祝祭日・年末年始休み)
	1月11日(火) 1月25日(火)	1月18日(火)		
	2月8日(火) 2月22日(火)	2月15日(火)		
時間	10:00～15:00	10:00～15:00	8:30～17:15	8:30～17:15
場所	二戸消費生活センター (二戸合同庁舎内) TEL 0195-23-5800※要予約		二戸市総合福祉センター TEL 0195-43-3588	一戸町社会福祉協議会 (一戸町総合保健福祉センター内) TEL 0195-33-3385

Voice



「広報ゆいっこ編集係」にお寄せいただいた住民の皆さんの声をお届けします。

いつも楽しく拝読致しております。表紙はP10に関連し「つながり」の大切さが伝わってきましたよ。(40代男性)

これからもたくさんの「つながり」を伝えられるよう頑張ります!!

「災害義援金募集のお知らせ」がのっていますが、正式名称の他にどこでの災害かが具体的に書いてもらえるとうわかりやすいです。(60代女性)

本号より、主な災害発生地域を記載しました。今後とも「ゆいっこ」をよろしく願います。

毎年めもと長寿祝のページを見るのが楽しみです。長年連れ添って生きてきた方々の穏やかな顔を見るとこっちまで嬉しくなります。(60代女性)

来年も多くの笑顔をお届けできますように…。



災害義援金募集のお知らせ

社会福祉協議会では、被災された方々を支援するための義援金を次の通り受付しております。頂いた義援金は岩手県共同募金会や日本赤十字社岩手県支部を通じて全額被災地の方々へ届けられます。皆さまのご協力をお願いいたします。

- ・令和3年7月大雨災害義援金(静岡県、広島県他)
(受付期間:令和3年12月28日まで)
- ・令和3年台風第9号等大雨災害義援金(青森県)
(受付期間:令和3年12月28日まで)
- ・令和3年8月大雨災害義援金(九州地方、広島県他)
(受付期間:令和4年3月31日まで)
- ・令和3年長野県茅野市土石流災害義援金(長野県)
(受付期間:令和4年3月31日まで)
- ・令和2年7月豪雨災害義援金(福岡県、熊本県)
(受付期間:令和4年3月31日まで)
- ・平成30年7月豪雨災害義援金(広島県、岡山県)
(受付期間:令和4年6月30日まで)

その他、国外義援金についても受付しております。一戸町社会福祉協議会(TEL 0195-33-3385)までお問い合わせください。

読者プレゼント

本誌への感想や当協議会への意見など、アンケートに答えていただいた方の中から抽選で3名の方に一戸町の特産品(1,000円相当)をプレゼントします。

応募を希望される方は、①住所②氏名③年齢④電話番号⑤本誌への感想や当協議会に対する意見などを明記の上、はがきまたはメールにて編集係までお送りください。発表は、発送をもって替えさせていただきます。

応募方法

- ▶ はがき
〒028-5312 一戸町一戸字砂森93-2
一戸町社会福祉協議会「広報ゆいっこ編集係」
- ▶ メール
ichinohe-shakyo@themis.ocn.ne.jp



編集後記

こたつから抜け出せない季節になってきました。高齢者のお宅を訪問した時のこと、「豆炭こたつ」にあたらせていただきました。「豆炭こたつ」なんて知らないでしょう?」「いえいえ!我が家も豆炭ですよ!」と始まり、豆炭は身体の芯まで温まるとか、最近のガステーブルは安全装置がついているから熾すときはカセットコンロがおすすだとか…豆炭談議に花を咲かせました。2021年も残すところあと1か月。風邪など引かぬよう温かくして、良い年をお迎えください。(小野寺)

社会福祉法人 一戸町社会福祉協議会

〒028-5312
一戸町一戸字砂森93-2
(一戸町総合保健福祉センター内)
TEL 0195-33-3385
FAX 0195-33-2737
ホームページ
<http://ichinohe-shakyo.jp/>

